

若手研究会

生物学若手研究者の集い(生物学若手会)

代表者 加藤竜司

連絡先 加藤竜司 (名古屋大学大学院創薬科学研究科) TEL. 052-747-6811 E-mail: kato-r@ps.nagoya-u.ac.jp

「生物学若手研究者の集い(若手会)」は、応用生物学、遺伝子工学、生物化学工学、細胞工学などの生物学に関連する各分野に属する全国の若手研究者(大学・企業)および次世代の若手研究者(学生)の相互交流を目的とした団体です。若手会の主な活動は、(1) 夏に開催の「夏のセミナー」(2014年度は2014年7月12日(土)・13日(日)に神戸市立神戸セミナーハウスで開催)、(2) 年会時に開催の「総会・交流会」(2014年度は9月10日(水)に札幌コンベンションセンターで開催予定)、(3) メーリングリストを用いた情報交流および情報発信です。若手会の活動および生物学で人的つながりを期待される方は企業の方も含めてどなたでもご参加いただけますので、各イベントへ是非ご参加をお願い申し上げます。



再生医療の細胞培養技術と産業展開

監修 紀ノ岡正博 B5判, 314頁, 価格77,760円, シーエムシー出版

ヒトiPS細胞などの多能性幹細胞を用いた再生医療の早期実現が期待されているが、基礎研究レベルで治療の成功が報告されることと、実際に世の中で広く活用される医療技術として普及することは次元が異なる。本書は、再生医療の汎用化に欠かせない細胞製品製造産業の実現を、産学官の強い連携で成し遂げていくための監修者の決意、考え方、展望を一冊に凝縮したものといえよう。再生医療産業という新しい産業領域を成立させるには、細胞製造技術、設備、施設、運用法、保存技術、輸送技術、品質評価・管理技術、細胞や培地などの原料・資材の整備などに係る「モノづくり＝技術開発、更新、統合」の進歩はもちろんのこと、市場戦略、標準化、規制改革、人材育成などを含む再生医療産業分野に係る「コトづくり」を並行して成し遂げることの重要性が巻頭に提起されている。引き続き各章で、これらモノづくり、コトづくりを構成する各要素について、最新動向や課題が述べられている。モノづくり一辺倒の解説書ではなく、コトづくりについての記載も豊富であり、総じてバランスが良い。

再生医療を取り巻く環境や技術の革新はきわめてダイナミックであり、関連する解説書は近年多い。同出版社のシリーズだけでも、『幹細胞医療の実用化技術と産業展望(監修 江上美芽・水谷 学, 発行日: 2013年3月)』『再生医療製品の許認可と組織工学の新しい試み(監修 岩田博夫・松岡厚子・岸田晶夫, 発行日: 2012年5月)』『ものづくり技術からみる再生医療—細胞研究・創薬・治療—(監修 田畑泰彦, 発行日: 2011年11月)』『細胞治療・再生医療のための培養システム(監修 紀ノ岡正博・酒井康行, 発行日: 2010年1月)』と毎年のように関連するタイトルが出版されている。その中において、再生医療技術の開発・産業化に携わる研究者・技術者が、モノづくりからコトづくりまで、広い視野を保って関与することの重要性を実感することとなる本書は、まさしく一読の書であろう。(大阪大学 長森英二)